

第105回 萩句会報告 順不同

日時 2018年4月9日(月) 14時～17時

兼題「落角」

- 川井素山 ○巢立つ娘の言葉少なき夕餉かな  
草餅や月の兎の落としもの  
花を追ひ後願ひの留守電話  
諍ひの子に親詫びる落とし角
- 保井寶正 ○角落ちて暫し夢見る涅槃かな  
万感の一本桜は巨瀑かな  
土筆伸ぶ素足の赤子駆け回る  
棘隠し陽に笑へむや木瓜の花
- 佐久間喬 ○墨堤に乾杯の声風光る  
暮れなずむ花の峠や色深め  
居酒屋の隅に座りし春の暮  
夕暮れの角落ち鹿の眼は優し
- 後藤克彦 ○父植えし枝垂れ桜や我も老ゆ  
葉桜やベンチの下に宴の跡  
妻と行く忘れ角あり奈良の旅  
手をつなぎ老いて通るや花のアーチ
- 丸山酔宵子 ○角落とし群れを離れる男鹿かな  
花菜漬なづけきざみ茶漬の一人の夜  
日が暮れて囚らず身振ひ花の冷  
花は葉に緑潤ふ小雨かな
- 菊地崇之 ○春灯や眠りへ誘ふ語りの会  
落角やトランプ為すは信長流  
初蝶やはらりはんなりしゃなりかな  
若き日の母に会ふかや花すみれ
- 吉田啓悟 ○天気雨海市をみんと旅に出る  
春愁やシャンソン歌手の黒づくめ  
山門の日の出の頃や落とし角  
惜別の時の流るる春の宵

- 青木英林 ○子供等が釈迦に説法灌仏会  
古都の朝犬の吠え声落し角  
庭隅に血汐の如く椿散る  
鳥達が田起しを待つ朝餉時
- 山本草風 ○夕暮に梵鐘響く花の雨  
らっかく  
落角も戦う意欲失はず  
はじらひの顔少しある入学式  
友逝きて桜薬降る思い出道
- 佐伯兵庫 ○粧し込み自撮りに夢中木の芽時  
老いの恋言葉少なき花見酒  
喜寿近く落し角見てサブリ増え  
鳥帰る年金暮らしひとり酒
- 佐久間たか子 ○水の音に風の語りて山笑う  
黄昏の動物園に落し角  
湖につらなる桜ゆさゆさと  
山路の花さがしつも忘れ角
- 渡辺鯨波 ○角落ちて芸人のごと鹿の貌  
電動の歯ブラシにする木の芽時  
謙虚なる少年棋士や風光る  
パンダの子でめぐり返り水温む
- 金森純女 ○落し角肩寄せ合える若き鹿  
春の鴨池のほとりに眠りをり  
目借り時一杯呑んで帰りけり  
噛みしめてえぐみまた良し土筆かな
- 澁谷瑠璃 ○角落ちて立派を競ふ意味も無し  
うすごおり  
薄氷 モース硬度で測れるか  
陽炎や解読出来ぬシャムの文字  
白魚のやうな手泳ぐ水屋かな
- 原 晶如 ○草上のはなし弾みし落し角  
黙々と崩れゆく城霾ぐもり  
島と島呼び寄せてある海女の笛  
さくら散る髪に袴にけふ発つ日

永井正孝 ○闘鶏の蹴爪の技を榮<sup>は</sup>やしたて  
感覚が定まらぬのか落し角  
積奠<sup>せきてん</sup>を控え静かな大成殿  
春燈に覚束無しや病み上り

青葉ひかる ○どの道も茨に満ちて春の別れ  
花終わるウエストサイドストーリー  
桜吹雪母旅立ちし日蘇り  
春日山芽吹く緑に角落ちて

次回「萩句会」

日時 2018年5月14日（月）14時～17時  
場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『落角』一句  
当季雑詠 三句